

2022 年度 美術学部 芸術学科 出題意図

◆外国語

長文を全文和訳させることで、その論旨を正しく把握できるかどうかを問うています。

英語 問題 1

レオナルド・ダ・ヴィンチの絵画観について述べた文章です。レオナルドが絵画制作の科学的・理論的側面を重視し、単なる技術的熟練だけを頼りに制作する態度を厳しく批判した、という内容です。したがってこの文意を的確に訳しだすポイントとしては、「科学」と「機械的な手仕事」、「理論」と「実践」といった対をなす概念をうまく訳しだすことが重要です。この全体としての主張の内容を的確につかめれば、レオナルド自身の言葉を引用した部分の比喻(理論を知らずに制作する画家は舵や羅針盤なしに航海する水夫に似ている)も正しく訳せるでしょう。

英語 問題 2

白という色彩がもつイメージや伝統について述べた文章です。美德、純潔、清潔、謙虚といった性質を担ってきたことが主題となっています。古代ローマの白いトガは、市民権や共通善の象徴であったことが最初に述べられています。その後、ヴィクトリア朝時代には喪服が黒から白に変わった例が挙げられています。現在の喪服が黒を基調とすることからここで誤訳することがあるかもしれません。その後、ヴィクトリア女王が「色に染まっていない」純白のドレスを採用したことで純潔のシンボルとして広まったことが述べられています。

独語 問題 1

最初の写真「ダゲレオタイプ」に関する文章です。写真が最初は芸術としてではなく、新しい機械的技術として扱われたことを読み取れることが重要です。事実、1862年のロンドン万博では写真は機械のカテゴリーとして農業機械の隣に展示されていました。その後、写真は「美術」のセクションで展示されるべきという主張が写真家たちからなされたことが述べられています。

独語 問題 2

正面観による肖像と側面観による肖像という肖像画のふたつの基本的なタイプについて、古代以来の由来に関わる伝承からその性格の相違を説明する文章。構文そのものは平易だが肖像画に関するごく基礎的な知識を踏まえて文章を読み解く必要があります。その上で文章の大意から個々の言葉の意味を汲み取りつつ、適切で論理的な日本語に置き換えることがポイントとなります。

仏語 問題 1

あるものの美しさは、ひとがそれと自分との関わりを考えながら接しているときには見えてこず、その関わりに気を取られなくなったとき、それ自体の美しさをあらわにする。以上が文章全体の骨子です。un caillou, une fleur, また l'enfant の言葉のような平易な例を引きながら、基本的な語彙を中心に組み立てられた文章であり、内容は少々専門的ではあるものの、基礎的なフランス語の能力を問うています。語法の点ではくりかえしあらわれる nous と elles のふたつの代名詞、そして masquer と révéler のふたつの動詞の対立に注目しましょう。これらの関係を踏まえて訳出できるかがよりよい答案の鍵となります。

仏語 問題 2

西洋近代の絵画と詩の発展過程を論じた文章からの出題です。ここで中心的に論じられているのは、それらの芸術ジャンルでは、近代において、自然から距離をとり、自然の事物の持つ形を歪めるといった特徴が生じたこと、しかしそればかりではなく、そのように形を歪めることによって、作品に描かれた形や形どうしの関係が、より鑑賞者に訴えかけるものになったということです。文法については、特に難しい点はありませんが、内容を正確に理解するためには、ジェロンディフや、名詞と形容詞の性数の一致、関係詞など、基礎的な文法事項に注意を払い、丁寧に読み解くことが必要です。長い文が含まれていますが、落ち着いて読めば、文の構造を読みとることは十分に可能です。

◆地理歴史 日本史

要語句(人名、事項など)の説明を求める問題です。9題のうち5題を選択して解答します。ある程度の長さの記述問題ですので、知識の正確さに加えて、文章の読みやすさ、論理的明快さ、表現力も評価の対象となります。

(1) 三島由紀夫

戦後史の文化、思想が交錯した社会的出来事を問う問題です。三島由紀夫は戦後日本の文学界を代表する作家の一人で、『仮面の告白』『金閣寺』『潮騒』など優れた多くの小説を発表、ノーベル文学賞の候補にもなりました。同時に政治活動も展開し、楯の会を結成、陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地で演説ののち割腹自殺し、社会に大きな衝撃を与えたことなどへの言及が想定されています。

(2) 古墳文化

古墳文化とは、3世紀から7世紀に至る、古代国家の形成期における古墳の築造を中心にした文化です。古墳の分布・墳形・規模、外部施設、埋葬施設、副葬品などに着目して、前期(3世紀中頃～4世紀後半)、中期(4世紀後半～5世紀)、後期(6世紀)の各時期における特徴と、そこから窺われる古代国家の形成過程や社会のあり方について論述することが、評価の基本となります。

ことに倭の五王との関係が考えられる中期の大規模な前方後円墳や、辛亥年(471年か)の紀年とワカタケル大王の名を記した埼玉県の稲荷山古墳出土鉄剣銘や、同じくワカタケル大王とみられる名を記した熊本県の江田船山古墳出土鉄刀銘は、5世紀におけるヤマト政権のあり方を考える上で貴重な文字史料であり、重要な論点です。

また、岡山県の造山古墳や千葉県龍角寺岩屋古墳などの中期・後期の地方における巨大古墳の築造、蘇我馬子の墓とみられる後期の石舞台古墳、後期における福岡県の竹原古墳、茨城県の虎塚古墳などの装飾古墳、奈良県の高松塚古墳、キトラ古墳に代表される壁画古墳、精巧な馬具や金銅製宝冠などの副葬品をともし藤ノ木古墳などへの言及も、加点要素とします。

関連するキーワードは、次の通り。

墳形、埋葬施設、副葬品、埴輪、古代国家、前期、豪族、首長、司祭者、呪術的、中期、5世紀、前方後円墳、巨大、周壕、葺石、竪穴式石室、鉄製武器・馬具、鏡、王権、倭の五王、外交、稲荷山古墳出土鉄剣銘、江田船山古墳出土鉄刀銘、大仙陵古墳(仁徳天皇陵)、応神天皇陵、後期、横穴式石室、装身具、須恵器、装飾古墳、薄葬令

(3) 聚楽第

十六世紀末、豊臣秀吉によって建てられたものと言われる聚楽第の歴史的な伝承について述べるとともに、現存しない建造物がどのように想定されてきたか、遺構とされる建造物や描かれた作品などを通じて論じることを求

めた問題です。

(4) 伊藤若冲

江戸時代中期の美術について問う問題です。18世紀後半の京都画壇には円山応挙や伊藤若冲、曾我蕭白など多くの才能が出現し、百花繚乱の時代を迎えました。とくに伊藤若冲は奇想の画家として近年とみに評価が高まり、美術史、展覧会、現代美術など多方面から注目されていることへの言及があれば高評価です。

(5) 平がな

日本の文字としての平がなについて、そのはじまりから現在にいたる歴史、かたちの変遷と文字としての特徴、視覚芸術としてのあり方などを中心に、できるかぎり具体的な文学作品や絵画作品をあげつつ論じることを求めています。

(6) 柳田国男

近代学問の成立に関する問題です。柳田国男は、日本各地の昔話や伝説などの民間伝承を調査し、日本民俗学を創始しました。西洋学問の移植に急だった明治期に対して、「日本人とは何か」を庶民の歴史や文化から明らかにしようとしたこと、『遠野物語』など著作への言及があれば高評価です。

(7) 吉備真備

奈良時代を代表する学者・政治家に関する基礎知識を問うことが、基本的な出題意図です。遣唐使の果たした歴史的な役割を体現したようなその人物像を、分かりやすく説明することを求めています。

地方豪族の出身でありながら、唐への留学を通して中国文化に関する深い教養と天文学・兵学などの実学的な知識とを身につけ、橘諸兄政権から道鏡政権まで長く政治家として活躍し、最後は右大臣にまで昇った経歴を論述することが、評価の基本となります。藤原広嗣の乱において玄昉とともに追放を求められたこと、藤原仲麻呂の乱において討伐を命じられたことなどは、その経歴に関わる歴史的な事実です。

また、同時期に留学した僧玄昉や阿倍仲麻呂、平安時代前期に活躍した学者政治家である菅原道真と対比したり、入唐にまつわる伝説をユーモラスに絵画化したボストン美術館の『吉備大臣入唐絵巻』(平安時代後期)に言及することも、加点要素とします。

関連するキーワードは、次の通り。

地方豪族、遣唐使、留学生、学問、天文学、兵学、玄昉、阿倍仲麻呂、橘諸兄、藤原広嗣の乱、藤原仲麻呂の乱、軍事、右大臣、菅原道真、『吉備大臣入唐絵巻』

(8) 応仁の乱

歴史の転換点となった内乱を、俯瞰的な視点からとらえ、簡潔明瞭に論じることが、基本的な出題意図です。

限られた文字数の中で、争乱の直接的な原因や経緯とともに、内乱の背景にあった室町幕府の状況や、長期わたる争乱とそれにとまらぬ社会経済の変革をもたらした歴史的な意味に関する論述を、評価のポイントとして重視します。

また、主戦場となった京都の荒廃が、地方の文化振興に関与したことなど、文化史的な側面について言及することも加点要素とします。

関連するキーワードは、次の通り。

15世紀後半、将軍、足利義政、足利義視、足利義尚、管領、畠山氏、斯波氏、家督、細川勝元、山名宗全、京都、守護大名、内乱、足輕、荘園制の解体、戦国時代、下克上、戦国大名、小京都、大内氏、山口、雪舟、桂庵

(9) 曹洞宗

禅宗の一宗として知られる曹洞宗について、中国での発祥と日本への伝布、道元や『正法眼蔵』などに触れつつ、臨済宗との対照等をもふくめて、十三世紀の仏教、文化の動向を視野に論じることを求めています。

◆地理歴史 世界史

要語句(人名、事項など)の説明を求める問題です。9題のうち5題を選択して解答します。ある程度の長さの記述問題ですので、知識の正確さに加えて、文章の読みやすさ、論理的明快さ、表現力も評価の対象となります。

(1) ヴェルサイユ条約

第一次世界大戦の終結後、1919年にドイツと連合国のあいだで結ばれた講和条約です。敗戦国ドイツに領土の削減や軍備の制限、また多額の賠償金を課すとともに、戦後の国際秩序維持のために国際連盟の設立をうたった点を述べてください。その国際秩序がヴェルサイユ体制と呼ばれます。条約の問題点としてはアメリカ、中国、ソ連といった大国が加わっていなかったために、イギリスとフランスを中心とする戦勝国にのみ圧倒的に有利な体制をなしてしまったことがあります。さらにこの条約に強い不満を持ったドイツでナチ党が台頭、ひいては第二次大戦の遠因となったことにふれてください。

(2) 神仙思想

古代中国の思想のひとつ。定義、内容、展開について正確に記されているほか、事項の単なる羅列におわらず、有機的に論じられているかが重要です。関連事項:不老不死、仙人、道教への影響等。

(3) ラヴェンナ

西ローマ帝国の最後の首都となってから東ゴート王国の首都、ビザンチン帝国のイタリア総督領の首府を経て教皇領となるにいたるまで、古代の終焉と中世の初期、ローマ帝国末期からカロリング朝の成立に至る歴史のひとつの中心となったラヴェンナの概要について問うています。この時代を代表する多くの芸術を擁するラヴェンナの、歴史的・文化的な重要性に関する回答が望ましいです。

(4) アラベスク

イスラーム美術を代表する装飾文様です。文様の定義、成立背景、装飾がほどこされた具体的な建築等の名称が正確に記されているほか、事項の単なる羅列におわらず、有機的に論じられているかが重要です。関連事項:イスラーム美術、偶像崇拜の禁止、モスク等。

(5) ニューディール

1930年代、大恐慌後のアメリカで当時のローズヴェルト大統領がとった一連の政策の総称です。「ニューディール」は「新規まきかえし」を意味し、政策の全体的な特徴としては連邦政府の権限を強化して積極的な経済統制を行いました。経済への介入をとまなう政策の一部は合衆国憲法に違憲するという判決を受けますが、全体としては恐慌対策に一定の成果をあげています。解答としてはこうした政策の特徴や成果について述べるとともに、農業調整法(AAA)、全国産業復興法(NIRA)などの個々の政策や、テネシー川流域開発公社(TVA)のように、雇用の安定を図った大規模な公共事業が多数展開されたことにふれてください。

(6)シチリア王国

11世紀のノルマン王朝の成立からフランス、ドイツ、スペイン系の王朝が続き、中世から近世にかけてヨーロッパ史の特異な側面を形成したシチリア王国の概要に関する問題。とりわけ中世においては地中海世界の一つを中心として、西ヨーロッパとビザンチン、イスラムの交差点となった文化的な意義に着目した回答が求められます。

(7)エラスムス

ルネサンス期のアルプス以北における最大の人文主義者エラスムスの文化的な意義に関する問い。中世から近世に移行する時代背景を踏まえ、思想史の中の位置付け、宗教改革との関り、イギリスを含むアルプスを挟んだ南北の人文主義者たちや、人文主義の影響を受けたルネサンスの画家たちとの交流について着目した回答が望ましいです。

(8)三・一独立運動

1919年に日本の植民地支配下の朝鮮で起こった独立運動です。年代、背景、経過、結果について正確に記されているほか、事項の単なる羅列におわらず、有機的に論じられているかが重要です。関連事項:植民地支配、朝鮮総督府、武断政治、文化政治等。

(9)ピューリタン

16世紀後半のイギリスにおけるカルヴァン派の総称で、エリザベス I 世による国教会改革を不足とし、さらに徹底した改革や聖書に基づく信仰の純粹さを求めたことからこの名があります。経済の面では生活習慣においても勤労や儉約、蓄財を重んじたことから近代資本主義の勃興を担ったとされ、政治史上では1640年から60年にかけてクロムウェルの下でピューリタン革命を主導。イギリスの絶対王政を崩壊に至らしめました。さらにアメリカ大陸に渡って最初期の植民地開拓に従事した、ピルグリム・ファーザーズもピューリタンです。文学では『失樂園』のミルトンらがピューリタン文学と呼ばれます。

◆小論文

芸術について研究することは、芸術とは何か、それは何のためにあるのかということ問うことでもあります。もちろん、その答えは人によって異なると思いますが、重要なのは、普段から芸術について深く考えているかどうかということです。この問題で問われているのは、書籍等からの受け売りではない、自分の芸術体験に基づいた思考です。そのうえで、自分の考えを論理的に展開し、自然で適切な日本語を用いて表現する能力が問われています。具体的な作品を例に挙げて論じることは構いませんが、あまりに詳細な作品記述を行うと、問題の意図から外れてしまいますので注意が必要です。

◆鉛筆素描(石膏像)

今回の鉛筆素描では、代表的な石膏像のなかから、通称「アリアス」像が出題されました。これを、3時間で画用紙に鉛筆で素描します。出題の意図としては、石膏像の素描を通じて、対象の形態および明暗の調子の観察と再現、構図の取り方などの、基礎的な造形表現力を評価するための試験です。限られた時間で的確に石膏像を描写するためには一定の視覚的・造形的訓練が必要ですが、そうした能力を身につけることは、芸術学科の専門領域である美学・美術史の学習・研究にとっても貴重な素養となるのです。